

## 安全データシート

作成日 2021年8月19日  
改訂日 2025年1月27日

## 1. 化学品及び会社情報

## 化学品

プロピレングリコールモノエチルエーテル  
(Propylene glycol monoethyl ether)

## 供給者の会社名称

アーク株式会社

## 住所

大阪市中央区安土町3-5-13 本町ガーデンシティテラス3階

## 電話番号

06-6563-7710

## 緊急時の電話番号

06-6563-7720

## 推奨用途及び使用上の制限

ペンキ、樹脂、インキの溶剤

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

## 分類実施日

JIS Z 7252, 7253:2019 使用

## 物理化学的危険性

引火性液体 区分3

## 健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷性／  
眼刺激性 区分2B

特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分3(気道刺激、麻酔作用)

## GHSラベル要素

## 絵表示又はシンボル



## 注意喚起語

警告

## 危険有害性情報

引火性液体及び蒸気

強い目刺激

呼吸器への刺激のおそれ

眠気又はめまいのおそれ

## 注意書き

## 【安全対策】

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。

容器を密閉しておくこと。

容器を接地すること。アースをとること。

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。火花を発生させない工具を使用すること。静電気放電に対する予防措置を講ずること。

ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

取り扱い後は手や顔をよく洗うこと。

保護手袋、保護眼鏡を着用すること。

## 【応急措置】

皮膚又は髪に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取り除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。

吸入した場合、呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。目の刺激が続く場合は、医師の診断、手当を受けること。

火災の場合には、適切な消火剤を使用すること。

## 【保管】

容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。

換気の良い冷所で保管すること。  
 施錠して保管すること。

**【廃棄】**

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物  
 処理業者に業務委託すること。

**他の危険有害性**

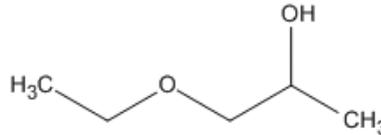
情報なし

**3. 組成及び成分情報**

**化学物質**

化学名又は一般名  
 別名  
 分子式(分子量)  
 化学特性(示性式又は構造式)

プロピレングリコールモノエチルエーテル  
 1-エトキシ-2-プロパノール  
 $C_5H_{12}O_2$



CAS番号  
 官報公示整理番号

1569-02-4  
 化審法:(2)-2424、(7)-97、安衛法:公表化学物質

分類に寄与する不純物及び安  
 定化添加物

情報なし。

濃度又は濃度範囲

≥99.0%

**4. 応急措置**

**吸入した場合**

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢  
 で休息させること。

**皮膚に付着した場合**

気分が悪い時は、医師に連絡すること。  
 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。  
 水と石鹼で洗うこと。  
 皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを  
 受けること。

**眼に入った場合**

水で数分間注意深く洗うこと。  
 コンタクトレンズを用意に外せる場合は外して洗うこと。  
 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けるこ  
 と。

**飲み込んだ場合**

口をすすぐこと。  
 気分が悪い時は、医師に連絡すること。  
 データなし  
 データなし  
 救助者はゴム手袋、密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

予想される急性症状及び遅発性症状  
 最も重要な兆候及び症状  
 応急措置をする者の保護

**医師に対する特別注意事項**

データなし

**5. 火災時の措置**

消火剤  
 使ってはならない消火剤  
 特有の危険有害性

泡消火剤、粉末消火剤、水噴霧、炭酸ガス、乾燥砂類  
 棒状放水

**特有の消火方法**

引火性の高い液体および蒸気。  
 極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。  
 静電気で引火するおそれがある。  
 消火作業は、風上から行い、周囲の状況に応じた適切な消火  
 方法を用いる。

**消火を行う者の保護**

関係者以外は安全な場所に退去させる。  
 危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
 容器が熱に晒されているときは、移動しない。  
 周辺火災時、容器に水を噴霧して冷却する。  
 安全に対処できるならば着火源を除去すること。  
 適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

## 6. 漏出時の措置

## 人体に対する注意事項、保護具および緊急措置

特別個人用保護具(自給式呼吸器)を着用する。  
漏出場所の風上から作業し、風下の人を退避させる。  
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

環境に対する注意事項  
回収・中和

関係者以外の立入りを禁止する。  
密閉された場所に立入る前に換気する。  
環境に放出しないこと。  
不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学廃棄物容器に入れる。

## 封じ込め及び浄化方法・機材

危険でなければ漏れを止める。  
付着物、回収物などは、関係法規に基づき速やかに処分する。

## 二次災害の防止策

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。  
着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。  
火花を発生しない安全な用具を使用する。  
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策  
局所排気・全体換気

消防法の規制に従う。  
『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

## 安全取扱い注意事項

適切な保護具を着用する。  
漏れ、あふれ、飛散しないよう注意し、みだりに蒸気を発生させない。  
静電気対策を行う。  
設備などは防爆型を用いる。  
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。

保管 接触回避  
技術的対策  
保管条件

容器を密閉しておくこと。  
容器を接地すること。アースをとること。  
ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。  
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。  
皮膚、眼および衣類との接触を避ける。  
蒸留など加熱を伴う操作を行う場合には、予め過酸化物の有無を確認する。  
データなし。

## 容器包装材料

消防法の規制に従う。  
換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。容器を密閉しておくこと。  
酸化剤などの混触危険物質から離して保管する。  
施錠して保管すること。  
法令の定めるところに従う。

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度  
許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)

未設定

日本産衛学会  
ACGIH(2019)

未設定  
TLV-TWA: 50ppm、213mg/m<sup>3</sup>  
TLV-STEL: 200ppm、850mg/m<sup>3</sup>

## 設備対策

容器を設置しアースを取ること。  
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。

保護具	呼吸器の保護具 手の保護具 眼の保護具 皮膚及び身体の保護具	火花を発生させない工具を使用すること。 静電気放電に対する措置を講ずること。 防毒マスク、自給式呼吸器、送気マスク等。 不浸透性の手袋。 保護眼鏡(ゴーグル型)。状況に応じ保護面。 不浸透性の保護衣。状況に応じ、保護長靴。 取扱い後はよく手を洗うこと。
衛生対策		
<b>9. 物理的及び化学的性質</b>		
物理的状	形状 色 臭い pH	液体(20℃、1気圧) 無色(ICSC(2004)) 微臭(ICSC(2004)) データなし
融点・凝固点		-100℃(ICSC(2004))
沸点、初留点及び沸騰範囲		133℃(ICSC(2004))
引火点		40℃(ICSC(2004))
自然発火温度		255℃(ICSC(2004))
燃焼又は爆発範囲		(ICSC(2004))
	下限:	1.3vol%
	上限:	12vol%
蒸気圧		13.33hpa(20℃)
蒸気密度		3.6
蒸発速度(酢酸ブチル=1)		データなし
比重(密度)		0.9(20℃)
溶解度	[水]	混和
オクタノール・水分配係数		logP=0.3(ICSC(2004))
分解温度		データなし
粘度		データなし
<b>10. 安定性及び反応性</b>		
安定性		爆発性の過酸化物を生成することがある。
危険有害反応可能性		データなし
避けるべき条件		火花、裸火、静電放電、空気
混触危険物質		酸化剤、強酸、強塩基
危険有害な分解生成物		二酸化炭素、一酸化炭素
その他		
<b>11. 有害性情報</b>		
急性毒性	経口	4500mg/kg(ラット、LD50)(ECETOC TR95(2005)) >5,000mg/kg(ラット、LD50)(PATTY(6th, 2021))
	経皮	8,100mg/kg(ラット、LD50)
	吸入	蒸気 ラット、吸入(4時間):3,337ppm(全身ばく露)、2,213mppm(鼻部ばく露)で死亡例なし(ACGIH(7th, 2019))
皮膚腐食性・刺激性		OECD TG 404に準拠したウサギを用いた皮膚刺激性試験において、1及び24時間後にごく軽微な紅斑がみられたが、48時間後には消失、落屑もみられたが7日後には消失した。24/48/72hの赤斑及び浮腫の平均スコアはそれぞれ、0~1.33及び0であった。(REACH登録情報(Access on August, 2019))
眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性		区分に該当しないとした。 ウサギの目刺激性試験では日刺激性の結果から中等度の刺激性までの結果が存在する。(ACGIH(7th, 2019)) 区分2Bとした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性		呼吸器感作性:情報なし 皮膚感作性:情報なし

生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性(IARC, NTP)	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ラットの4時間単回ばく露試験において、10,000ppm(42.5mg/l、区分2超)で、眼と鼻の刺激と中枢神経系抑制が認められたが、死亡例はなかった。(ACGIH(7th, 2019)、PATTY(6th, 2012)) 区分3とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	情報なし
誤えん有害性	情報なし

## 12. 環境影響情報

生態毒性 水生環境有害性 短期(急性)	情報なし
水生環境有害性 長期(慢性)	情報なし

### オゾン層への有害性

当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。(GHS分類: 分類できない)

残留性/分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし

## 13. 廃棄上の注意

適切な保護具を着用する。  
地方条例や国内規制に従う。  
焼却処理する場合には、アフターバーナー及びスクラバーを備えた焼却炉で焼却する。  
空容器を処分する時は、内容物を完全に除去した後に行う。  
処理施設がないなどの理由で廃棄できない場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。

## 14. 輸送上の注意

国連番号	3271
品名	エーテル類(他に品名が明示されているものを除く。)
Proper Shipping Name	ETHERS, N.O.S.
クラス	3
PG	III
海洋汚染物質	非該当
国際規制 海上規制情報	IMOの規定に従う。
航空規制情報	ICAO・IATAの規定に従う。
国内規制 陸上規制情報	消防法の規定に従う。
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	航空法の規定に従う。
特別安全対策	移送時にイエローカードの保持が必要。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。
緊急時応急措置指針番号	127

## 15. 適用法令

安衛法	皮膚等障害化学物質等 (R8年4月1日以降) 名称等を表示し、又は通知すべく危険物及び有害物
消防法	第四類引火性液体 第二石油類水溶性液体(法第9条の4、危険物令第1条の12・別表第4)
船舶安全法	引火性液体(危規則第3条危険物告示別表第1)
航空法	引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1)

**16. その他の情報**

このMSDSは、我々が知り得た情報を基に誠意をもって作成しておりますが、記載のデータや危険、有害性の評価に関しては、いかなる保証もなすものではありません。ご使用に先立って、危険、有害性情報のみならず、ご使用になる機関、地域、国の最新の規則、条例、法規制などを調査し、それらを最優先してください。